

富士教育訓練センターの充実強化の具体化に向けた検討委員会報告(概要)

1. 富士教育訓練センターの現状と課題

- 建設投資の大幅な減少、就業者の高齢化、若年入職者の減少等の状況下で、次世代への技能・技術の承継が喫緊の課題。
- 厳しい経営環境の中で、従来のOJTに加え、OFF-JTの一層の活用を進める必要性。
- 富士教育訓練センターは、従来から建設産業界の人材育成の拠点としての役割を担ってきており、OFF-JTを一層活用する観点から、そのソフト面での機能の充実強化が必要不可欠。
- 一方で、建物の老朽化が大きな課題となっており、建物の早期の建替えが必要な状況。

2. 富士教育訓練センターの充実強化の具体化に向けた基本的な方向性

1. ソフト面の充実強化

- (1) 総論(訓練機能の集中や連携・協力)
 - ・ 建設業界関係者全体で技能・技術の教育訓練の体制を整理
 - ・ 三田建設技能研修センターとの緊密な連携の下、建設業界における拠点となる広域的職業訓練施設として位置づけ
 - ・ 建設産業の魅力・役割の情報発信拠点としての役割
- (2) ユーザー等のニーズに沿った教育訓練の内容の在り方
 - ・ 教育訓練内容の充実を通じた自立的・安定的な経営基盤の確立
 - ・ 外国人技能実習生、女性、被災者等に対応したカリキュラムや、防災、耐震化、リフォーム等に対応したカリキュラムの検討
- (3) 他の訓練施設との連携・協力
 - ・ 三田建設技能研修センターとの具体的な連携・協力方を速やかに構築の上、他の職業訓練施設との連携・協力も深めるべき
- (4) 建設業団体、企業、学校、地域、行政等との連携・協力、活用促進
 - ・ 建設業界関係者全体での富士教育訓練センターや三田建設技能研修センターの利用促進
 - ・ 関係者連携による地域レベルでの人材育成策の推進
- (5) ソフト面での充実を図るためのPDCAサイクルの確立等

2. ハード面の充実強化

- (1) 施設の老朽化、耐震化対策、機能の充実強化
 - ・ できる限り速やかに、建替・改修等に関する優先順位を整理
 - ・ 平成26年度中には優先順位の高い施設の建替等工事に着手
- (2) 今後の訓練内容等に対応した施設整備の在り方
 - ・ 過大スペックとならないよう、整備の必要性について十分検討
 - ・ 訓練生間のコミュニケーション、インターネット対応、外国人技能実習生や女性への対応等時代の変化に応じた施設整備の検討
- (3) 建替等資金に関する基本的な方針
 - ・ 運営主体(全国建設産業教育訓練協会)、施設所有者(建設業振興基金)の最大限の負担と既存助成制度の最大限の活用が前提
 - ・ 建設業界関係者全体を挙げて象徴的取組の一環として支援
 - ・ 建替実行委員会(仮称)の設置による責任・イニシアティブ明確化

3. 留意事項

- (1) 1. 及び2. の充実強化策実施に向けた優先順位
- (2) 「建設産業の人材確保・育成方針」と本報告の関係
 - ・ 方向性を共有しつつ、相互に補完し合って充実強化策を具体化
- (3) 検討委員会によるフォローアップ実施